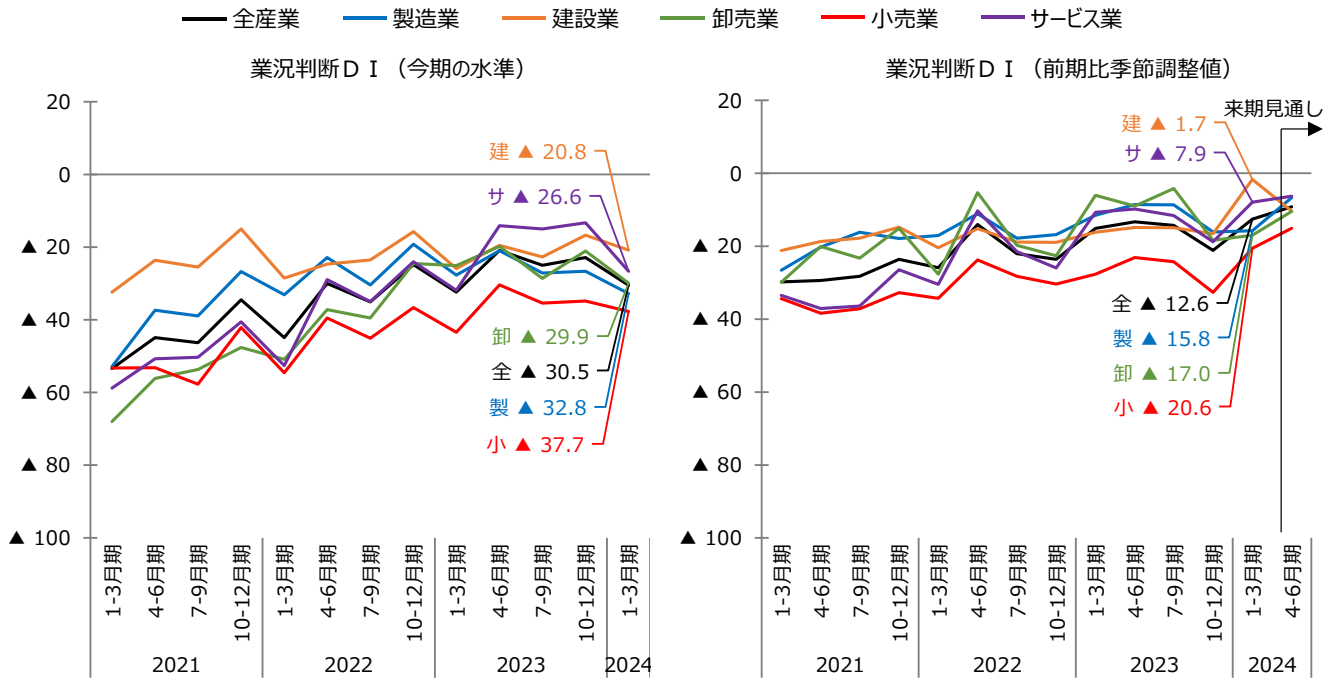


第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中部

1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より7.6ポイント減の▲30.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

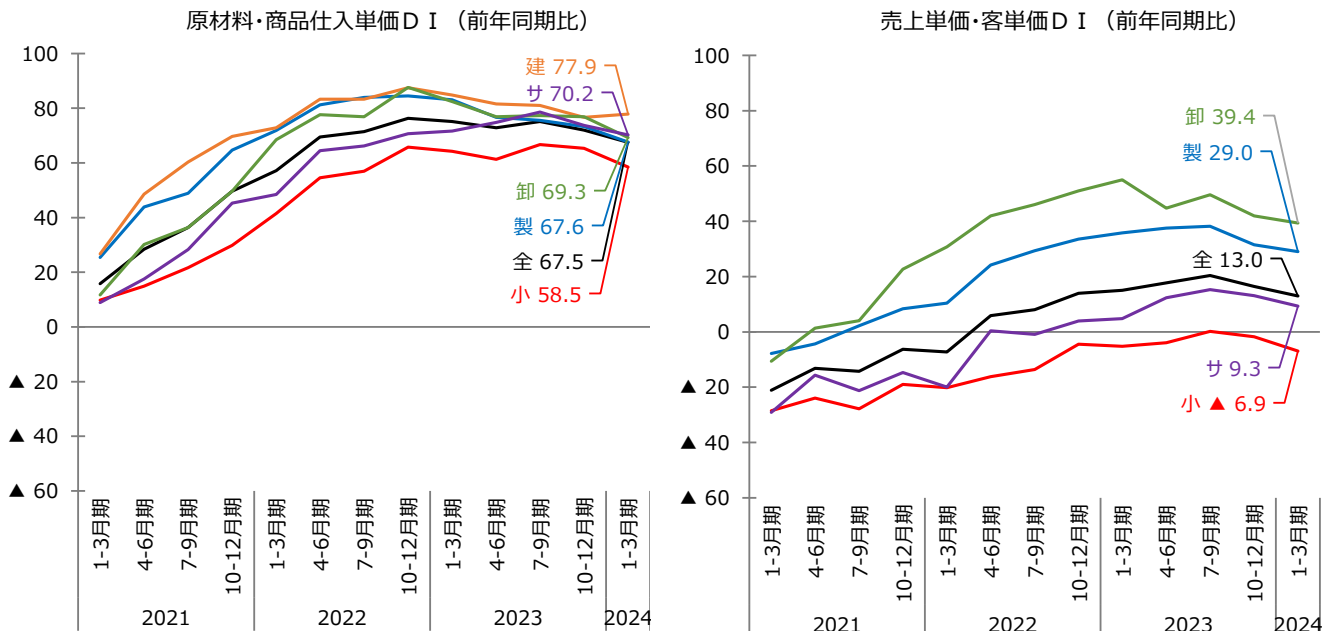


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年10-12月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.5ポイント減の67.5と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、小売業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の13.0と2期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、中部：2,241企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中部



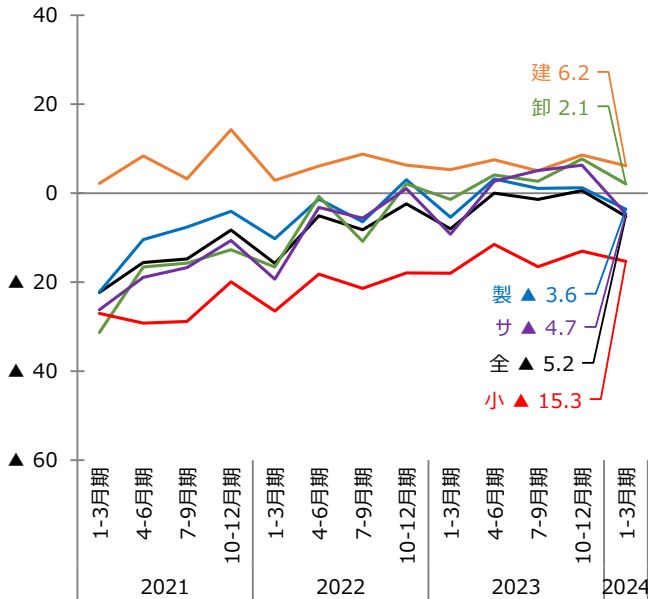
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.8ポイント減の▲5.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

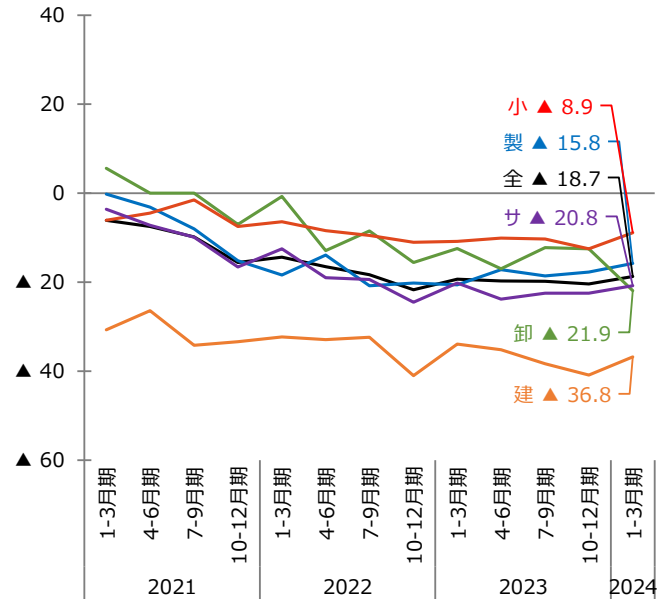
従業員過不足DIは、全産業で前期より1.7ポイント増の▲18.7と4期ぶりに上昇した。産業別では、建設業、小売業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

従業員過不足DI（今期の水準）



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	能登半島地震の影響で、1月の稼働日数が少なく、かなり痛かった。受注も不安定で、被災している取引先も数社あるので、元に戻るまでしばらくかかりそう。	製造業 半導体製造装置製造業
	幸い新入社員が増加したが、人材育成が課題であり力を入れている。また、女性社員が入社するので、職場環境整備にも注力している。	建設業 一般土木建築工事業
	この度の能登半島地震による経済の影響は、北陸地方においては深刻であると感じます。	卸売業 ジュエリー製品卸売業
	能登半島地震が発生し、自店の老朽化が心配になった。店舗の建て替えも検討しなければならない。材料費や部材費の価格上昇も利益を少なくする要因になっている。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	コロナの制限が緩和され、コロナ禍よりも注文・予約が入るようになったが、まだまだコロナ前のようにはいかない。店舗施設の老朽化も心配だが、設備投資を前向きに実施していくまでにはいかない。	サービス業 料亭
見通し	自動車部品の発注量が多いものの、メーカーの不正等による減算が続き、不透明感がある。F A部品等、汎用品は中国不況の影響もあり、減産・在庫調整に入った。全般的に業況は悪く、先一年は続きそうだ。	製造業 アルミニウム・合金プレス製品製造業
	回復の兆しはあるが、能登半島地震や建築基準法の改正予定等、先行きに不確定要素があるため、見通しは立ちにくい。	建設業 木造建築工事業
	消費者の購買意欲は未だ上昇していない。今後、賃上げが進行し、業況が活性化することが重要である。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	コロナの影響からの回復を期待していたが、1月の震災により、来店を含め、売上の大幅な停滞による大打撃を受けた。今月に入り、徐々に来店が増えてきたが、もう2、3ヶ月は苦しい状況が続くと思われる。	小売業 金物小売業
	食材費の上昇が収まらず、売値を上げていかないと採算が合わなくなっています。物価が上がるのと共に、従業員の給料を上げていきたいので人件費も上がる見通しです。利益としては、不安だと感じます。	サービス業 その他の専門料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。